

令和6年度 事務事業評価表 (令和5年度実績)

事務事業名		回天記念館管理運営事業費			担当所属	文化振興課		
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～			
	基本施策	2 文化・芸術の振興		会計種別				
	推進施策	3 平和学習等の推進		実施計画		総合戦略		
事業概要	対象	市民、入館者及び資料提供者等						
	意図	入館者に戦争の悲惨さ、平和の尊さ、命の大切さについて考察を深めてもらうとともに、大津島の振興にも寄与する。						
	成果	平和学習施設として、回天の史実や戦争の悲惨さ、平和の尊さ、命の大切さについて考える機会を提供できる。						
	手段	・回天記念館の適切な管理運営及び、平和学習を行う。・戦争の悲惨さ、平和の尊さ、命の大切さについて考える機会を提供する施設として、回天関係資料の保存、展示及び解説や講話、講座等を通じて、平和啓発を行う。 S43.11開館。開館時間：8：30～16：30。休館日：水曜日（祝日の場合は翌日）及び年末年始。入館料：大人310円（団体250円）、18歳以下無料。						
指標	活動指標	指標名		単位	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込
		入館者数	目標値	人	14000	13000	13000	13000
			実績値	人	7876	9098	9726	-
			目標達成度	%	56.3	70.0	74.8	-
コスト	(単位：千円)		令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 予算	
	トータルコスト		20,816	15,532	19,884	20,785	25,446	
	事業費		5,290	7,008	5,040	5,373	7,489	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	1,599	1,379	2,005	2,338	2,619	
		その他	2,342	3,298	2,917	2,587	2,480	
	一般財源		1,349	2,331	118	448	2,390	
	人件費合計		15,526	8,524	14,844	15,412	17,957	
	正職員		15,526	8,524	14,844	15,412	17,957	
正職員以外		2,528	2,918	2,246	2,301	2,592		
(事業費集計済分)		(2,528)	(2,918)	(2,246)	(2,301)	(2,592)		
人員	正職員 (人)	2.17	1.20	2.06	2.12	2.47		
	正職員以外 (人)	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00		
環境変化等	開始時の周辺環境							
	昭和43年に回天顕彰会及び回天記念館建設賛助会により建設、昭和44年に市へ寄贈、平成10年に全面改修が行われた。							
	現状の周辺環境							
環境変化等	資料の整理と調査を進めるとともに、回天の歴史等を後世に伝えるために、長期的な運営体制づくりと人材確保が必要である。							
	今後の予想される周辺環境							
	来館者に不便が生じる定期航路の減便等の可能性あり。							
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）	A	回天の史実や平和の尊さについて考える機会を提供することができる。				
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A					
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	A					
	有効性	4. 計画の実施状況	B	適正な管理運営を行い、平和学習・啓発を行った。				
		5. 目標（活動指標等）の達成度	C					
		6. 上位施策への貢献度	B					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	資料の展示、解説、講話などにより平和学習施設としての役割を果たしている。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A					
10. これまでの実施手段		A						
総合評価	B	戦争の悲惨さ、平和の尊さ、命の大切さについて考える機会を提供する平和学習施設であり、周南市の特色のある施設として知名度の向上と展示解説等・講話を実施するスタッフの体制維持に努める必要がある。						
改革案	今後の実施方向性	維持	回天の史実や記念館の活動を周知するための取り組みを今後も実施し、来館者に平和の尊さ等を考える機会を提供する平和学習施設として運営していく。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果（どのような効果が期待できるか）							

令和6年度 事務事業評価表 (令和5年度実績)

事務事業名		回天記念館整備事業費			担当所属	文化振興課		
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～			
	基本施策	2 文化・芸術の振興		会計種別				
	推進施策	3 平和学習等の推進		実施計画		総合戦略		
事業概要	対象	回天記念館						
	意図	命と平和の尊さについて考える機会を提供するために、回天記念館の良好な収蔵環境と快適な展示空間を維持し、施設の整備を行う。						
	成果	施設を安全かつ快適に利用できる。						
	手段	計画的な改修を行い、施設と設備の長寿命化を図る。						
指標	活動指標	指標名		単位	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込
		指標なし		目標値				
				実績値				-
				目標達成度	%	-	-	-
コスト	(単位：千円)		令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 予算	
	トータルコスト		0	0	7,657	13,941	0	
	事業費		0	0	6,936	11,324	0	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	6,900	10,600	0	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
		一般財源	0	0	36	724	0	
	人件費合計		0	0	721	2,617	0	
	正職員		0	0	721	2,617	0	
正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.00	0.00	0.10	0.36	0.00		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
環境変化等	開始時の周辺環境							
	昭和43年に回天顕彰会及び回天記念館建設賛助会により建設、昭和44年に市へ寄贈、平成10年に全面改修が行われた。							
	現状の周辺環境							
環境変化等	令和5年度は展示室及びトイレ屋根改修工事を行った。大規模改修及び増築から20年以上経過し、老朽化が進んでいる。							
	今後の予想される周辺環境							
	建物の改修等や設備の更新に要する費用の増加。							
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与 (税金支出)		A	施設を安全かつ快適に利用するために、適切な整備・改修を実施する。			
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)		A				
		3. 事務事業の目標 (活動指標等)		C				
	有効性	4. 計画の実施状況		A	施設を安全かつ快適に利用するために、計画通り改修を実施した。			
		5. 目標 (活動指標等) の達成度		C				
		6. 上位施策への貢献度		B				
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		A				
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A	適切に整備・改修を実施している。			
		9. 類似事業との統合・代替の検討		A				
10. これまでの実施手段		A						
総合評価	B	施設を安全かつ快適に利用するために、適切な整備・改修を実施した。						
改革案	今後の実施方向性	維持	計画的な改修等を実施し、施設の長寿命化を図る。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果 (どのような効果が期待できるか)							

令和6年度 事務事業評価表 (令和5年度実績)

事務事業名		郷土美術資料館管理運営事業費			担当所属	文化振興課			
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～				
	基本施策	2 文化・芸術の振興		会計種別					
	推進施策	1 文化・芸術活動の促進		実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	市民等							
	意図	公園内という立地から館を身近に感じてもらえるような事業にも取り組みながら、郷土美術の鑑賞の機会を提供する。							
	成果	適正な維持管理により、利用者の利便性の向上や市民文化の育成が図られる。							
	手段	会期中のコンサート開催や公園イベント時の館前でのグッズ販売など、館の知名度向上に努め、郷土作品を身近で鑑賞できる機会を提供する。 指定管理者：周南市文化振興財団（R3～R7）							
指標	活動指標	指標名		単位	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込	
		入館者数		目標値	人	7000	7000	7000	7000
				実績値	人	2749	4214	4203	-
				目標達成度	%	39.3	60.2	60.0	-
コスト	(単位：千円)		令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 予算		
	トータルコスト		16,494	15,624	17,600	13,708	17,798		
	事業費		15,778	14,914	17,312	12,981	16,998		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	93	76	102	129	129		
		その他	13	6	15	9	13		
	一般財源		15,672	14,832	17,195	12,843	16,856		
	人件費合計		716	710	288	727	800		
正職員		716	710	288	727	800			
正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.10	0.10	0.04	0.10	0.11			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	郷土美術資料館は、画家尾崎正章氏から寄贈された作品を常時展示し、鑑賞できる機会を提供し、市民の文化風土の醸成を図り、広く市民が利用できる施設として、平成7年に、永源山公園内に建築された。								
	現状の周辺環境								
環境変化等	永源山公園内にある施設で、郷土作品の鑑賞の機会を提供できている。								
	今後の予想される周辺環境								
	今後も市民文化の啓発を図ることが必要とされる。								
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）	A	市民文化の向上や育成を図ることができる。					
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A						
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	A						
	有効性	4. 計画の実施状況	B	適正な維持管理により、市民文化の育成が図られた。					
		5. 目標（活動指標等）の達成度	C						
		6. 上位施策への貢献度	B						
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B						
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	公園内の立地という条件を活かしながら、美術鑑賞だけでなくコンサート開催等にも取り組んでいるが、さらに特性を活かした事業展開等を協議していく。					
		9. 類似事業との統合・代替の検討	B						
10. これまでの実施手段		B							
総合評価	B	美術博物館との連携や差別化を図りながら、公共性と公益性を維持するとともに両施設の役割を分担し、効果・効率的な運営方法の検討を継続していく必要がある。また、設備等の更新なども、中長期的な方向性を視野に入れながら対応する必要がある。							
改革案	今後の実施方向性	維持	指定管理者である（公財）周南市文化振興財団と連携しながら施設の適正な維持管理を行い、施設機能の維持に努めていく。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								

令和6年度 事務事業評価表 (令和5年度実績)

事務事業名		市美術展開催費			担当所属	文化振興課			
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～				
	基本施策	2 文化・芸術の振興		会計種別					
	推進施策	1 文化・芸術活動の促進		実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	市民等							
	意図	広く一般から作品を募ることで、市民の創作活動を促し美術に対する関心を高めるとともに、鑑賞を通して市民文化の振興を図る。							
	成果	美術に対する関心が高まるとともに、美術鑑賞を通して市民文化の発展に寄与することができる。							
	手段	周南市美術展の開催 美術博物館を会場として、例年10月（前期後期各5日間）に平面・立体・書・写真の4部門で開催。審査を行い、観覧料は無料。							
指標	活動指標	指標名		単位	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込	
		出品点数		目標値	点	300	300	300	300
				実績値	点	0	283	260	-
				目標達成度	%	0.0	94.3	86.7	-
コスト	(単位：千円)		令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 予算		
	トータルコスト		1,942	2,610	3,330	3,018	3,394		
	事業費		153	337	1,528	1,564	1,940		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	0	0	254	233	306		
	一般財源		153	337	1,274	1,331	1,634		
	人件費合計		1,789	2,273	1,802	1,454	1,454		
正職員		1,789	2,273	1,802	1,454	1,454			
正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.25	0.32	0.25	0.20	0.20			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	合併した平成15年から「周南市美術展」として、市民文化に寄与するために開催。								
	現状の周辺環境								
評価	今後の予想される周辺環境								
	さらなる出品者の高齢化と、若年層も含めた出品者の減少。								
	評価項目		評価	評価の理由					
妥当性	1. 市の関与（税金支出）		B	市民の創作活動、鑑賞等を通して市民文化の振興を図ることができる。					
	2. 事務事業の目的（対象・意図）		A						
	3. 事務事業の目標（活動指標等）		A						
有効性	4. 計画の実施状況		A	事前申込み制、搬入・搬出の事前通知等を行い、業務の効率化を図った。また、美術鑑賞を通じて市民文化の振興を図ることができた。					
	5. 目標（活動指標等）の達成度		B						
	6. 上位施策への貢献度		A						
	7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		B						
効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A	より意義のある美術展となるよう、若年層の出品促進等、計画的に応募要項等を検討していく必要がある。					
	9. 類似事業との統合・代替の検討		A						
	10. これまでの実施手段		B						
総合評価	A		事前申込み制、搬入・搬出の事前通知等を行い実施した。今後は若年層の出品促進等、計画的に応募要項等を検討していく必要がある。						
改革案	今後の実施方向性	維持	毎年、有識者で組織される周南市美術展運営委員会を開催し、公平な運営と市民の目標・励みとなるような開催要項を検討しており、今後も継続実施していく。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								

令和6年度 事務事業評価表 (令和5年度実績)

事務事業名		周南市誕生20周年記念事業費(生涯学習課)			担当所属	文化振興課		
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	令和5年度 ~ 令和5年度			
	基本施策	1 生涯学習の推進		会計種別				
	推進施策	2 学習機会の充実		実施計画		総合戦略		
事業概要	対象	周南市民						
	意図	市制20周年を記念して、市民が生涯学習を身近に感じることのできる機会を提供し、生涯学習活動を推進する。						
	成果	市民の生涯学習活動を推進できる。						
	手段	史跡クイズラリーを開催する。						
指標	活動指標	指標名		単位	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込
		指標なし						
		目標値						
		実績値						-
		目標達成度	%	-	-	-	-	
コスト	(単位:千円)		令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 予算	
	トータルコスト		0	0	0	211	0	
	事業費		0	0	0	211	0	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
		一般財源	0	0	0	211	0	
	人件費合計		0	0	0	0	0	
	正職員		0	0	0	0	0	
正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
環境変化等	開始時の周辺環境							
	旧徳山市街地には江戸時代の遺構など多数の史跡が残っている。市制20周年を記念して、市民がこれらの史跡を再認識できる機会を提供するために開催。							
	現状の周辺環境							
	史跡に文化財説明板を設置し周知を図っている。							
	今後の予想される周辺環境							
	今後も市民が文化財を身近に感じることができる機会を提供していく必要がある。							
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与(税金支出)	A	市民共有の財産の普及啓発活動であり、妥当である。				
		2. 事務事業の目的(対象・意図)	A					
		3. 事務事業の目標(活動指標等)	C					
	有効性	4. 計画の実施状況	B	市民等の文化財に対する関心を高めた。				
		5. 目標(活動指標等)の達成度	C					
		6. 上位施策への貢献度	B					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	B	今後も文化財の周知に努める。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討	B					
10. これまでの実施手段		B						
総合評価	D	市制20周年を記念して実施したが、引き続き、市民が文化財を身近に感じることのできる機会を提供していく必要がある。						
改革案	今後の実施方向性	廃止・休止						
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果(どのような効果が期待できるか)							

令和6年度 事務事業評価表 (令和5年度実績)

事務事業名		須金和紙センター管理運営事業費			担当所属	文化振興課		
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～			
	基本施策	2 文化・芸術の振興		会計種別				
	推進施策	1 文化・芸術活動の促進		実施計画		総合戦略		
事業概要	対象	市民等						
	意図	和紙作り等を体験する機会を提供し、地域に根ざした伝統文化を伝承・維持する。						
	成果	地域に伝わる伝統工芸の伝承と情報発信を図ることができる。						
	手段	須金和紙振興協議会が定期的に和紙絵教室を開催しているほか、体験学習として紙漉き体験を受け入れている。						
指標	活動指標	指標名		単位	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込
		利用者数	目標値	人	400	400	400	200
			実績値	人	25	61	122	-
			目標達成度	%	6.3	15.3	30.5	-
コスト	(単位：千円)		令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 予算	
	トータルコスト		557	553	560	1,127	668	
	事業費		414	411	416	400	450	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
	一般財源		414	411	416	400	450	
	人件費合計		143	142	144	727	218	
正職員		143	142	144	727	218		
正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.02	0.02	0.02	0.10	0.03		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
環境変化等	開始時の周辺環境							
	紙漉きの伝統技術の継承の場及び須磨小と交流しながら実習できる教育学習施設として平成3年に建築された。							
	現状の周辺環境							
環境変化等	須金和紙振興協議会（事務局：須金市民センター）が定期的な活動を行うほか、紙漉き体験などを受け入れているが、活動メンバーが高齢化、固定化している。新型コロナウイルスの影響で活動機会が減少するなか、体験教室の受入れは継続して行っているが、後継者の確保の問題が生じている。							
	今後の予想される周辺環境							
	紙漉き指導者や活動を支える人材、後継者の確保の問題が生じる。							
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）	A	地域に伝わる伝統工芸の伝承と情報発信等により、地域の活性化にも寄与している。				
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A					
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	A					
	有効性	4. 計画の実施状況	B	新型コロナウイルス感染症の影響及び活動メンバーの高齢化により利用者数は減少したが、適正な維持管理は行われており、地域に根ざした伝統文化の伝承は図られた。				
		5. 目標（活動指標等）の達成度	C					
		6. 上位施策への貢献度	B					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	効率的な維持管理が行われているが、事業内容や運営方法等については、見直す余地がある。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A					
10. これまでの実施手段		B						
総合評価	B	須金の地域施設である点も考慮しながら、施設の設置目的や意義、継続性を関係課や関係団体と協議していく必要がある。						
改革案	今後の実施方向性	維持	地域に伝わる伝統工芸の伝承という観点から、施設の活用や情報発信等について、須金和紙振興協議会（事務局：須金市民センター）及び関係課等と連携・協議を重ねていく。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果（どのような効果が期待できるか）							

令和6年度 事務事業評価表 (令和5年度実績)

事務事業名		鶴いこいの里管理運営事業費			担当所属	文化振興課			
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～				
	基本施策	1 生涯学習の推進		会計種別					
	推進施策	2 学習機会の充実		実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	周南市民を含む近隣住民							
	意図	人と鶴との共存をめざした交流を推進する コミュニティ活動及び生涯学習活動を推進する							
	成果	住民の地域活動及び地区外との交流が図られる							
	手段	鶴いこいの里（交流センター、運動広場、水泳プール、野鶴監視所等）の効率的な管理運営 地域行事や生涯学習活動の開催							
指標	活動指標	指標名		単位	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込	
		鶴いこいの里利用者数		目標値	人	20000	20000	20000	20000
				実績値	人	15271	14595	15007	-
				目標達成度	%	76.4	73.0	75.0	-
コスト	(単位：千円)		令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 予算		
	トータルコスト		14,533	13,427	19,493	16,747	20,928		
	事業費		10,669	9,591	12,287	12,821	13,004		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	141	92	328	360	328		
		その他	4	4	4	7	4		
	一般財源		10,524	9,495	11,955	12,454	12,672		
	人件費合計		3,864	3,836	7,206	3,926	7,924		
正職員		3,864	3,836	7,206	3,926	7,924			
正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.54	0.54	1.00	0.54	1.09			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	人と鶴の共存をめざして設置された。鶴の保護や鶴に関する調査研究、交流及び情報発信やコミュニティ活動、スポーツ活動等の生涯学習活動を行う								
	現状の周辺環境								
地域内の少子高齢化、人口減少が進んでいる 施設の老朽化が進み、修繕を計画的に行う必要がある									
今後の予想される周辺環境									
施設の老朽化が進むことにより、修繕費が増加していくと思われる									
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）		A	交流や学習を望む多くの市民を対象としており、妥当である。				
		2. 事務事業の目的（対象・意図）		A					
		3. 事務事業の目標（活動指標等）		B					
	有効性	4. 計画の実施状況		B	年度当初に新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、地域行事等も概ねコロナ以前の開催状況に戻ったこともあり、鶴施設の管理・運営や生涯学習活動について、概ね実施できた。				
		5. 目標（活動指標等）の達成度		B					
		6. 上位施策への貢献度		B					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		B					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A	効率的な施設の管理運営及びソフト事業の充実に努める。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討		A					
10. これまでの実施手段		B							
総合評価	B		生涯学習及び地域づくり活動の拠点としての価値を高めるよう、複合施設としての特性を活かした管理運営に努めていく必要がある。						
改革案	今後の実施方向性	維持	地域拠点及び複合施設としての機能向上に努める。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								
八代地区をはじめとする施設利用者の利便性が向上するとともに、住民間の交流を深めることができる。									

令和6年度 事務事業評価表 (令和5年度実績)

事務事業名		鶴保護対策事業費			担当所属	文化振興課		
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～			
	基本施策	2 文化・芸術の振興		会計種別				
	推進施策	2 文化財等の保護と活用		実施計画		総合戦略		
事業概要	対象	国特別天然記念物「八代のツルおよびその渡来地」周南市民						
	意図	特別天然記念物「八代のツルおよびその渡来地」の保護を図る 市民の文化財保護意識を高める						
	成果	市民のツル保護及び文化財保護意識が高まる ツル渡来数の増						
	手段	(1) 保護啓発活動及び調査研究 (2) 野鶴の監視、保護ツルの移送及び放鳥 (3) ねぐら及び施設の維持管理 (4) 関係機関及び団体との連携						
指標	活動指標	指標名		単位	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込
		ツル渡来数	目標値	羽	10	10	10	10
			実績値	羽	28	13	7	-
			目標達成度	%	280.0	130.0	70.0	-
コスト	(単位：千円)		令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 予算	
	トータルコスト		25,459	26,185	22,451	28,244	29,427	
	事業費		13,224	14,110	15,245	15,885	18,013	
	特定財源	国庫支出金	5,205	5,714	5,718	6,832	7,535	
		県支出金	1,735	1,904	1,906	2,277	2,511	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	3,123	3,123	3,123	3,123	2,122	
	一般財源		3,161	3,369	4,498	3,653	5,845	
	人件費合計		12,235	12,075	7,206	12,359	11,414	
	正職員		12,235	12,075	7,206	12,359	11,414	
正職員以外		3,260	4,391	5,397	5,639	6,164		
(事業費集計済分)		(3,260)	(4,391)	(5,397)	(5,639)	(6,164)		
人員	正職員 (人)	1.71	1.70	1.00	1.70	1.57		
	正職員以外 (人)	2.00	2.00	2.50	10.00	10.00		
環境変化等	開始時の周辺環境							
	一時渡来数が4羽まで減少した。平成17年度以降、出水市からの保護ツル移送・放鳥事業に取り組んでいる。							
	現状の周辺環境							
ツルの渡来数は10羽前後とほぼ横ばいである。令和5年度は7羽の渡来と目標値に及ばなかった。								
今後の予想される周辺環境								
ツルの渡来数は安定しているとはいえないことから今後も継続した事業実施を必要とする。文化財の価値を継続させるため、改めて説明や協力を求めていく必要がある。								
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与 (税金支出)	A	国指定文化財を保護する事業であり、妥当である。				
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)	A					
		3. 事務事業の目標 (活動指標等)	B					
	有効性	4. 計画の実施状況	B	環境整備は計画通り実施した。保護ツルの放鳥は、多数羽での放鳥を目指す方針としていることから、飼育を継続し放鳥は実施しなかった。				
		5. 目標 (活動指標等) の達成度	C					
		6. 上位施策への貢献度	B					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	効率的な事業実施に努める。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A					
10. これまでの実施手段		B						
総合評価	B	ツルの生息環境整備については現状を維持するとともに、移送・放鳥事業については、国・県及び出水市との協議を続け、円滑に進めていく必要がある。						
改革案	今後の実施方向性	維持	これまでの越冬環境整備及び渡来実績から、これまでの整備を継続するとともに、随時の整備内容の見直しを行う必要がある。国の進めるツル類の分散化に向けた計画策定の動きに関連して、環境省や文化庁、関係機関との連携を強化する。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果 (どのような効果が期待できるか)	市民のツルに対する保護意識を高めることができる。						

令和6年度 事務事業評価表 (令和5年度実績)

事務事業名		尾崎記念集会所管理運営事業費			担当所属	文化振興課			
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～				
	基本施策	2 文化・芸術の振興		会計種別					
	推進施策	1 文化・芸術活動の促進		実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	市民等							
	意図	地域のふれあい活動及び芸術にふれる機会を創出する。							
	成果	地域に根差した施設の適正な維持管理により、利用者の利便性の向上や市民文化の育成が図られる。							
	手段	・地元婦人会による効率的な管理運営を行う。・文化振興財団の協力により、尾崎正章氏の小作品を鑑賞する機会を提供する。							
指標	活動指標	指標名		単位	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込	
		利用者数		目標値	人	1300	1200	1200	1200
				実績値	人	966	1003	1177	-
				目標達成度	%	74.3	83.6	98.1	-
コスト	(単位：千円)		令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 予算		
	トータルコスト		760	762	878	1,313	0		
	事業費		545	549	590	586	0		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	1	1	1	1	0		
	一般財源		544	548	589	585	0		
	人件費合計		215	213	288	727	0		
正職員		215	213	288	727	0			
正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.03	0.03	0.04	0.10	0.00			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	平成4年に旧尾崎医院の土地建物の寄贈を受け、平成5年に尾崎氏の意思もあり、尾崎氏の小作品を鑑賞できる展示室と集会所を併せ持つ施設として開館。								
	現状の周辺環境								
環境変化等	木造建築で100年を迎え、施設の老朽化が進んでいる。地域活動の機会が減少。								
	今後の予想される周辺環境								
	施設の老朽化に伴い、令和6年3月31日をもって廃止。								
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与 (税金支出)	A	地域のふれあい活動や地元ゆかりの作家の作品にふれる機会の場を提供できる。					
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)	A						
		3. 事務事業の目標 (活動指標等)	B						
	有効性	4. 計画の実施状況	B	適正な維持管理により、市民文化の育成が図られた。					
		5. 目標 (活動指標等) の達成度	B						
		6. 上位施策への貢献度	B						
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B						
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	地元婦人会等による効率的な維持管理が行われているが、利用者が固定している。					
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A						
10. これまでの実施手段		B							
総合評価	D	施設の老朽化に伴い、令和6年3月31日をもって廃止。							
改革案	今後の実施方向性	廃止・休止							
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果 (どのような効果が期待できるか)								

令和6年度 事務事業評価表 (令和5年度実績)

事務事業名		美術博物館管理運営事業費			担当所属	文化振興課			
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～				
	基本施策	2 文化・芸術の振興		会計種別					
	推進施策	1 文化・芸術活動の促進		実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	市民等							
	意図	快適な鑑賞空間で優れた美術・芸術にふれる機会を提供し、美術文化に対する関心を高める。							
	成果	文化・芸術活動の拠点施設の適正な維持管理により、利用者の利便性の向上や市民文化の育成が図られる。							
	手段	美術博物館の適切かつ効率的な管理運営を行い、郷土の歴史や質の高い美術の鑑賞機会を提供する。 指定管理者：（公財）周南市文化振興財団（R3～R7）							
指標	活動指標	指標名		単位	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込	
		入館者数		目標値	人	90000	90000	90000	90000
				実績値	人	24987	40926	66986	-
				目標達成度	%	27.8	45.5	74.4	-
コスト	(単位：千円)		令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 予算		
	トータルコスト		140,369	152,107	167,675	158,570	183,717		
	事業費		139,367	150,686	166,738	157,843	182,917		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	1,074	1,905	1,701	2,932	3,471		
		その他	1	1	1	3	2		
	一般財源		138,292	148,780	165,036	154,908	179,444		
	人件費合計		1,002	1,421	937	727	800		
正職員		1,002	1,421	937	727	800			
正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.14	0.20	0.13	0.10	0.11			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	美術博物館は、市民の教育、学術及び文化向上に寄与することを目的に、「美術」、「写真」、「歴史」の3部門を持つ専門施設として、平成7年に建築された。								
	現状の周辺環境								
環境変化等	開館から25年以上経過し、建物や設備の不具合箇所が増加している。								
	今後の予想される周辺環境								
	今後も市民文化の啓発を図ることが必要とされる。								
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）	A	文化・芸術活動の拠点施設の適正な維持管理により、市民文化の向上や育成が図られる。					
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A						
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	A						
	有効性	4. 計画の実施状況	B	適正な管理により、市民文化の育成は図られた。					
		5. 目標（活動指標等）の達成度	C						
		6. 上位施策への貢献度	B						
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B						
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	指定管理者がノウハウを活かし、優れた美術・芸術にふれる機会を提供するなど適正に管理運営されており、最適である。					
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A						
10. これまでの実施手段		A							
総合評価	B	本市の文化拠点施設として引き続き適正に管理していく。公益性・専門性が高いことや、収蔵品（市の財産）を有することなどから、指定管理者制度を導入しているが、より効率的な施設の管理運営に努める必要がある。							
改革案	今後の実施方向性	維持	指定管理者である（公財）周南市文化振興財団と緊密に連携をとりながら、適正な維持管理に努める。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								

令和6年度 事務事業評価表 (令和5年度実績)

事務事業名		美術博物館企画事業助成事業費			担当所属	文化振興課			
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～				
	基本施策	2 文化・芸術の振興		会計種別					
	推進施策	1 文化・芸術活動の促進		実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	市民等							
	意図	全国発信事業の実施を支援し、本市の文化的知名度及び市民の誇りを高める。また、地方において観覧機会の少ない大規模あるいは意義ある展覧会の開催を支援し、質の高い美術芸術を提供する。							
	成果	本市の知名度や文化的イメージの向上と、幅広い世代を対象として市民文化の啓発が図られる。							
	手段	全国発信事業である「林忠彦賞」、及び（公財）周南市文化振興財団主催の企画展覧会等の開催を支援する。							
指標	活動指標	指標名		単位	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込	
		企画事業観覧者数		目標値	人	25000	20000	20000	20000
				実績値	人	11024	11370	21985	-
				目標達成度	%	44.1	56.9	109.9	-
コスト	(単位：千円)		令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 予算		
	トータルコスト		4,413	9,835	8,582	12,720	12,047		
	事業費		3,984	9,551	8,294	10,394	10,448		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	0	0	0	0	0		
	一般財源		3,984	9,551	8,294	10,394	10,448		
	人件費合計		429	284	288	2,326	1,599		
正職員		429	284	288	2,326	1,599			
正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.06	0.04	0.04	0.32	0.22			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	林忠彦賞は、戦後写真界に大きな足跡を残した写真家・林忠彦の多彩な業績を記念し、周南市と公益財団法人周南市文化振興財団が平成3年に、氏の遺志を生かしアマチュア写真の振興を目的として設立創設したものの。								
	現状の周辺環境								
林忠彦賞は、第18回より対象をプロ作家にまで広げることで賞の拡大を図っている。全国発信事業である「林忠彦賞」については、東京都で受賞発表会、受賞記念写真展を開催した。また（公財）周南市文化振興財団主催の企画展覧会「アニメ化30周年記念企画 ちびまる子ちゃん展」写真展 岩合光昭の世界ネコ歩き2」を開催。									
今後の予想される周辺環境									
「林忠彦賞」や企画展覧会等による本市の全国発信と市民文化の啓発を図ることが引き続き必要とされる。									
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）	A	本市の知名度や文化的イメージの向上、展覧会の開催による市民文化の向上等を図ることができた。					
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A						
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	A						
	有効性	4. 計画の実施状況	B	「林忠彦賞」授賞式、写真展を開催。企画展覧会「アニメ化30周年記念企画 ちびまる子ちゃん展」写真展 岩合光昭の世界ネコ歩き2」も開催。質の高い美術芸術の提供及び市民文化の向上に寄与できた。					
		5. 目標（活動指標等）の達成度	A						
		6. 上位施策への貢献度	B						
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B						
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	実施方法や企画内容等を文化振興財団とともに検討していく必要がある。					
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A						
10. これまでの実施手段		B							
総合評価	A	林忠彦賞は、林忠彦氏の顕彰を目的として創出された全国発信事業である。関係者への認知度は高まっており、今後は特に市民への情報発信により力を入れて継続して実施する必要がある。また、企画展覧会についても、収益が見込め、かつ質の高い展覧会の開催がなされるよう支援する必要がある。							
改革案	今後の実施方向性	維持	「林忠彦賞」は全国発信事業として市の知名度や文化的イメージの向上に、企画展覧会等幅広い世代を対象として市民文化の向上等に寄与しているため、補助内容や企画内容を検証しながら、引き続き実施する。「林忠彦賞」においては、市民への情報発信の取組みを検討し推進する。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								

令和6年度 事務事業評価表 (令和5年度実績)

事務事業名		美術博物館整備事業費			担当所属	文化振興課		
基本情報	分野	2 生涯学習・人権	事業期間	～				
	基本施策	2 文化・芸術の振興	会計種別					
	推進施策	1 文化・芸術活動の促進	実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	美術博物館						
	意図	美術博物館の良好な収蔵環境と快適な鑑賞空間を維持し、身近に美術作品を鑑賞できる環境を提供するために施設の整備を行う。						
	成果	施設を安全かつ快適に利用できる。						
	手段	計画的な改修を行い、施設と設備の長寿命化を図る。						
指標	活動指標	指標名		単位	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込
		指標なし						
		目標値						
		実績値						-
		目標達成度	%	-	-	-	-	
コスト	(単位：千円)		令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 予算	
	トータルコスト		6,972	4,353	42,840	33,146	17,195	
	事業費		6,185	3,430	42,336	32,201	15,741	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	5,500	2,900	38,100	0	14,000	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	32,100	0	
		一般財源	685	530	4,236	101	1,741	
	人件費合計		787	923	504	945	1,454	
	正職員		787	923	504	945	1,454	
正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.11	0.13	0.07	0.13	0.20		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
環境変化等	開始時の周辺環境							
	美術博物館は、市民の教育、学術及び文化向上に寄与することを目的に、「美術」、「写真」、「歴史」の3部門を持つ専門施設として、平成7年に建築された。							
	現状の周辺環境							
美術品等を収蔵・展示することから、空調等に細心の注意を払い、年間を通じて適正に温湿度を管理する必要があり、施設・設備の改修・改善が必要。								
今後の予想される周辺環境								
建物の改修等や設備の更新に要する費用の増加。								
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与 (税金支出)	A	施設を安全かつ快適に利用するために、適切な整備・改修は必要である。				
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)	A					
		3. 事務事業の目標 (活動指標等)	C					
	有効性	4. 計画の実施状況	A	計画どおり改修工事を実施した。				
		5. 目標 (活動指標等) の達成度	C					
		6. 上位施策への貢献度	B					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	A					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	指定管理者と協議の上、優先順位を付けて整備・改修をしている。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A					
10. これまでの実施手段		A						
総合評価	B	ライフサイクルコストを踏まえ、計画的に整備・改修していく必要がある。						
改革案	今後の実施方向性	維持	指定管理者の (公財) 周南市文化振興財団等と協議しながら、計画的な改修等を実施し、施設の長寿命化を図る。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果 (どのような効果が期待できるか)							

令和6年度 事務事業評価表 (令和5年度実績)

事務事業名		美術博物館特別展覧会等開催事業費			担当所属	文化振興課			
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～				
	基本施策	2 文化・芸術の振興		会計種別					
	推進施策	1 文化・芸術活動の促進		実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	市民等							
	意図	本市にゆかりのある作家の顕彰や関連する内容を調査研究し、独自に企画した本市ならではの意義ある展覧会を開催することで、美術に対して市民等の関心を高める。							
	成果	本市ならではの質の高い展覧会の開催により、美術に対する市民等の関心が高まる。							
	手段	地元で活躍する作家の近作を紹介する秀作美術展「しゅうなんアート・ナウ2023」及び本市ならではの質の高い特別展覧会を開催する。							
指標	活動指標	指標名		単位	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込	
		特別展覧会等開催数		目標値	回	1	2	2	2
				実績値	回	1	2	2	-
		目標達成度		%	100.0	100.0	100.0	-	
コスト	(単位：千円)		令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 予算		
	トータルコスト		12,594	1,375	14,696	13,978	16,176		
	事業費		10,877	523	13,255	11,652	13,850		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	1,765	0	1,338	2,080	5,200		
		その他	486	523	1,946	5,120	4,440		
	一般財源		8,626	0	9,971	4,452	4,210		
	人件費合計		1,717	852	1,441	2,326	2,326		
	正職員		1,717	852	1,441	2,326	2,326		
正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.24	0.12	0.20	0.32	0.32			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	本市ならではの、質の高い芸術の鑑賞機会の提供を目的として開始。								
	現状の周辺環境								
アート・ナウ2023を開催。令和5年度の特別展覧会は、「日本の画家たち展」を開催した。									
今後の予想される周辺環境									
今後もより多くの市民に観覧してもらえ、意義のある展覧会が開催できるよう、調査研究していく必要がある。									
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）		A	本市ならではの質の高い展覧会の開催により、市民文化の向上につながる。				
		2. 事務事業の目的（対象・意図）		A					
		3. 事務事業の目標（活動指標等）		B					
	有効性	4. 計画の実施状況		B	地元で活躍する作家の近作を紹介する意義ある展覧会を開催し、美術に対する市民等の関心を高めた。				
		5. 目標（活動指標等）の達成度		A					
		6. 上位施策への貢献度		B					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		B					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		B	より意義のある展覧会が開催できるよう、継続的に企画内容を検討していく必要がある。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討		A					
10. これまでの実施手段		B							
総合評価	B	特別展は、周南市ならではのテーマを選定し、企画力の高いものとなるように調査研究に努める必要がある。アート・ナウ展は、今後も開催方法の見直しなどを継続して検討する必要がある。							
改革案	今後の実施方向性	維持	(公財) 周南市文化振興財団に委託して特別展を開催しているが、調査研究も必要となることから計画的なテーマの選定と予算措置を行っていく。また、アート・ナウ展は、関係者と協議の上、今後も開催方法等を見直していく。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								

令和6年度 事務事業評価表 (令和5年度実績)

事務事業名		文化会館管理運営事業費			担当所属	文化振興課		
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～			
	基本施策	2 文化・芸術の振興		会計種別				
	推進施策	1 文化・芸術活動の促進		実施計画		総合戦略		
事業概要	対象	市民等						
	意図	文化会館の良好な活動環境と快適な鑑賞空間を維持し、質の高い舞台芸術・展覧会・講演会等、優れた文化・芸術にふれる機会を提供する。						
	成果	文化・芸術活動の拠点施設の適正な維持管理により、利用者の利便性の向上や市民文化の育成が図られる。						
	手段	指定管理者により、文化会館を安全かつ効率的に管理運営し、優れた舞台芸術等の鑑賞機会を提供する。 指定管理者：（公財）周南市文化振興財団（R3～R7）						
指標	活動指標	指標名		単位	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込
		使用率	目標値	%	75	75	75	75
			実績値	%	61.8	64.8	65.8	-
			目標達成度	%	82.4	86.4	87.7	-
コスト	(単位：千円)		令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 予算	
	トータルコスト		133,951	147,633	148,898	150,515	163,925	
	事業費		132,806	145,857	146,304	149,788	163,125	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	17,671	29,697	36,795	43,752	45,808	
		その他	0	0	23	23	12,702	
	一般財源		115,135	116,160	109,486	106,013	104,615	
	人件費合計		1,145	1,776	2,594	727	800	
正職員		1,145	1,776	2,594	727	800		
正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.16	0.25	0.36	0.10	0.11		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
環境変化等	開始時の周辺環境 平成18年度から指定管理者制度を導入し、（公財）周南市文化振興財団を指定管理者としている。							
	現状の周辺環境 質の高い文化芸術の鑑賞及び文化活動の場の提供を行っている。							
	今後の予想される周辺環境 今後も市民文化の啓発を図ることが必要とされる。							
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）	A	文化・芸術活動の拠点施設の適正な維持管理により、市民文化の向上や育成が図られる。				
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A					
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	A					
	有効性	4. 計画の実施状況	A	適正に管理運営ができた。				
		5. 目標（活動指標等）の達成度	B					
		6. 上位施策への貢献度	B					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	指定管理者がノウハウを活かし、優れた文化・芸術にふれる機会を提供するなど、適正に管理運営されており、最適である。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A					
10. これまでの実施手段		A						
総合評価	A	本市の文化拠点施設として引き続き適正に管理していく。公益財団法人として一定の制約はあるが、経営という視点で、施設の利用者（出演者、観覧者等）へのサービスやチケットの販売促進、会員の勧誘など営業努力は必要である。						
改革案	今後の実施方向性	維持	指定管理者である（公財）周南市文化振興財団と緊密に連携をとりながら、適正な維持管理に努める。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果（どのような効果が期待できるか）							

令和6年度 事務事業評価表 (令和5年度実績)

事務事業名		文化会館整備事業費			担当所属	文化振興課		
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～			
	基本施策	2 文化・芸術の振興		会計種別				
	推進施策	1 文化・芸術活動の促進		実施計画	該当	総合戦略	該当	
事業概要	対象	文化会館						
	意図	文化会館を鑑賞及び発表の場として、利用者が安心して快適に利用できる環境を提供する。						
	成果	文化芸術活動の拠点施設の適正な維持管理により、利用者の利便性の向上や市民文化の育成が図れる。						
	手段	計画的な改修等を行い、施設と設備の長寿命化を図る。						
指標	活動指標	指標名		単位	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込
		指標なし		目標値				
				実績値				-
				目標達成度	%	-	-	-
コスト	(単位：千円)		令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 予算	
	トータルコスト		8,124	74,240	0	76,643	0	
	事業費		7,337	73,317	0	75,698	0	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	6,600	65,900	0	0	0	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	70,000	0	
		一般財源	737	7,417	0	5,698	0	
	人件費合計		787	923	0	945	0	
	正職員		787	923	0	945	0	
正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.11	0.13	0.00	0.13	0.00		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
環境変化等	開始時の周辺環境							
	文化会館は周南地域の重要な文化拠点施設として、質の高い舞台芸術の鑑賞及び文化活動の場として昭和57年に建築された。							
	現状の周辺環境							
建築から41年が経過し、大規模改修に伴う調査及び基本計画の策定を行った。								
今後の予想される周辺環境								
建物の大規模改修や設備の更新に要する費用の増加。								
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与 (税金支出)		A	施設を安全かつ快適に利用するために、適切な整備・改修は必要である。			
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)		A				
		3. 事務事業の目標 (活動指標等)		C				
	有効性	4. 計画の実施状況		A	施設を安全かつ快適に利用するために、計画通り、大規模改修に伴う調査及び基本計画策定を実施した。			
		5. 目標 (活動指標等) の達成度		C				
		6. 上位施策への貢献度		B				
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		A				
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A	指定管理者と協議の上、優先順位を付けて整備・改修している。			
		9. 類似事業との統合・代替の検討		A				
10. これまでの実施手段		A						
総合評価	B		ライフサイクルコストを踏まえ、計画的に改修・修繕していく必要がある。					
改革案	今後の実施方向性	維持	指定管理者の(公財)周南市文化振興財団等と協議しながら、計画的な改修等を実施し、施設の長寿命化を図る。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果 (どのような効果が期待できるか)							

令和6年度 事務事業評価表 (令和5年度実績)

事務事業名		文化行事等開催費			担当所属	文化振興課		
基本情報	分野	2 生涯学習・人権	事業期間	～				
	基本施策	2 文化・芸術の振興	会計種別					
	推進施策	1 文化・芸術活動の促進	実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	山口県総合芸術文化祭分野別フェスティバルの事業実施団体						
	意図	県・市及び文化団体が、連携・協力して山口県総合芸術文化祭を盛り上げ支援することで、市民文化の向上及び振興を図る。						
	成果	山口県及び県内文化団体との連携による山口県総合芸術文化祭の分野別フェスティバルの開催地（共催）支援として、「周南市文化事業等開催費補助金交付要綱」に基づき、令和5年度は山口県音楽協会に対して支援を行う。						
	手段	山口県及び県内文化団体との連携による山口県総合芸術文化祭の分野別フェスティバルの開催地（共催）支援として、「周南市文化事業等開催費補助金交付要綱」に基づき補助支援を行う。						
指標	活動指標	指標名		単位	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込
		文化事業等開催費補助金交付	目標値	件	0	2	1	2
			実績値	件	0	2	1	-
			目標達成度	%	-	100.0	100.0	-
コスト	(単位：千円)		令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 予算	
	トータルコスト		0	0	544	1,145	1,345	
	事業費		0	0	400	200	400	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
		一般財源	0	0	400	200	400	
	人件費合計		0	0	144	945	945	
	正職員		0	0	144	945	945	
正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.00	0.00	0.02	0.13	0.13		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
環境変化等	開始時の周辺環境							
	県総合芸術文化祭が開催されるにあたり、県事業などの連携や市民による文化事業を支援・後援することとなった。							
	現状の周辺環境							
県総合芸術文化祭の開催地として、補助事業を行っている。								
今後の予想される周辺環境								
今後も県総合芸術文化祭の開催地として、市民による文化事業の支援を行う。								
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）		A	文化活動を支援する補助事業であるため、妥当である。			
		2. 事務事業の目的（対象・意図）		B				
		3. 事務事業の目標（活動指標等）		A				
	有効性	4. 計画の実施状況		A	適正に補助金を交付した。			
		5. 目標（活動指標等）の達成度		A				
		6. 上位施策への貢献度		A				
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		A				
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		B	山口県総合芸術文化祭が開催できているため、実施手段は最適である。			
		9. 類似事業との統合・代替の検討		A				
10. これまでの実施手段		B						
総合評価	A	山口県総合芸術文化祭開催のために開催地として活動団体に補助を行ってきたが、令和2年度からは県が補助金の交付を終了したため、市としても支援の在り方について検討を行う必要がある。						
改革案	今後の実施方向性	縮小	山口県総合芸術文化祭開催のために県とともに設置された補助金であるが、県の補助金が終了したため、今後、市としても支援の在り方について検討を行う必要がある。					
	成果方向性	成果縮小						
	コスト方向性	コスト削減						
	改革効果（どのような効果が期待できるか）							

令和6年度 事務事業評価表 (令和5年度実績)

事務事業名		文化財等管理運営事業費			担当所属	文化振興課		
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～ 永年			
	基本施策	2 文化・芸術の振興		会計種別				
	推進施策	2 文化財等の保護と活用		実施計画		総合戦略		
事業概要	対象	市内の文化財 周南市民						
	意図	文化財の周知と積極的な活用を図り、市民の文化財保護意識を高める						
	成果	市民の文化財保護意識が高まる						
	手段	(1) 文化財の保護及び活用のための効率的な管理運営 (2) 市民の誇りにつながる歴史文化の保護及び利用機会の提供						
指標	活動指標	指標名	単位	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込	
		山田家本屋入館者数	人	1500	1000	1500	2000	
		目標値	人	825	1134	1887	-	
		実績値	%	55.0	113.4	125.8	-	
コスト	(単位：千円)		令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 予算	
	トータルコスト		6,929	8,309	8,609	13,549	10,928	
	事業費		4,425	5,468	5,006	5,552	5,475	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	495	0	0	
	一般財源		4,425	5,468	4,511	5,552	5,475	
	人件費合計		2,504	2,841	3,603	7,997	5,453	
	正職員		2,504	2,841	3,603	7,997	5,453	
正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.35	0.40	0.50	1.10	0.75		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.80		
環境変化等	開始時の周辺環境							
	2市2町の合併により、指定・登録文化財を引き継いだ。							
	現状の周辺環境							
文化財の説明看板等について、劣化が進行し、更新を要するものがある。								
今後の予想される周辺環境								
指定文化財について、修理等の理由により所有者に対して補助金交付を検討する可能性がある。								
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与 (税金支出)		A	市民共有の財産の管理であり、妥当である。			
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)		A				
		3. 事務事業の目標 (活動指標等)		B				
	有効性	4. 計画の実施状況		A	市所有の文化財について適切な管理を行った。			
		5. 目標 (活動指標等) の達成度		A				
		6. 上位施策への貢献度		A				
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		B				
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A	文化財の適切な管理と効果的な活用に努める。			
		9. 類似事業との統合・代替の検討		B				
10. これまでの実施手段		B						
総合評価	A	事業の継続が必要であるため、市の主体性を発揮しながら、関係団体等と協議を重ね、効果的・効率的な事業運営に努めていく。						
改革案	今後の実施方向性	維持	公開施設などの活用を図るため有効な広報活動のほか、文化財の適切な管理と伝承に資する取組に努める。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果 (どのような効果が期待できるか)							
市民共有の財産である文化財を後世に伝えることができるとともに、市民の文化財に対する保護意識を高めることができる。								

令和6年度 事務事業評価表 (令和5年度実績)

事務事業名		文化財保護一般事務費			担当所属	文化振興課			
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～ 永年				
	基本施策	2 文化・芸術の振興		会計種別					
	推進施策	2 文化財等の保護と活用		実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	市内の文化財 周南市民							
	意図	郷土の特色ある歴史や文化の継承を図る							
	成果	市内の指定及び登録文化財が増加する。令和5年度：国指定4、県指定16、市指定69、国登録20							
	手段	(1) 文化財等に関する調査等の実施 (2) 市民の誇りにつながる歴史文化の学習機会の提供							
指標	活動指標	指標名		単位	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込	
		文化財件数		目標値	件	107	110	110	110
				実績値	件	110	110	109	-
				目標達成度	%	102.8	100.0	99.1	-
コスト	(単位：千円)		令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 予算		
	トータルコスト		2,779	4,027	5,711	6,912	8,314		
	事業費		275	1,541	2,036	2,186	2,498		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	20	16	9	23	20		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	53	47	0	23	108		
	一般財源		202	1,478	2,027	2,140	2,370		
	人件費合計		2,504	2,486	3,675	4,726	5,816		
	正職員		2,504	2,486	3,675	4,726	5,816		
正職員以外		1,295	1,292	1,661	1,852	2,118			
(事業費集計済分)		(1,295)	(1,292)	(1,661)	(1,852)	(2,118)			
人員	正職員 (人)	0.35	0.35	0.51	0.65	0.80			
	正職員以外 (人)	0.05	1.00	1.00	1.00	0.20			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	旧2市2町の指定・登録文化財を引き継いだ。								
	現状の周辺環境								
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与 (税金支出)	A	市民共有の財産を保護する事業であり、妥当である。					
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)	A						
3. 事務事業の目標 (活動指標等)		A							
有効性	4. 計画の実施状況		A	文化財の指定・登録件数は、目標値を概ね達成できている。					
	5. 目標 (活動指標等) の達成度		B						
	6. 上位施策への貢献度		B						
	7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		B						
効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A	未指定文化財に対する調査に取り組む体制の構築に努める。					
	9. 類似事業との統合・代替の検討		B						
	10. これまでの実施手段		B						
総合評価	B		事業の継続が必要であるため、可能な限り文化財の調査に取り組み、関係機関等とも協議を重ねながら、文化財の保護に努めていく。						
改革案	今後の実施方向性	維持	計画的に文化財の指定・登録を進めるため、周南市文化財審議会に諮りながら、未指定文化財の情報収集及び調査に努める。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果 (どのような効果が期待できるか)							市民共有の財産である文化財を保護することができる。	

令和6年度 事務事業評価表 (令和5年度実績)

事務事業名		文化振興一般事務費			担当所属	文化振興課			
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～				
	基本施策	2 文化・芸術の振興		会計種別					
	推進施策	1 文化・芸術活動の促進		実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	市民等							
	意図	文化振興事務の円滑化及び市民や団体等の文化活動の支援、本市ゆかりの作家の顕彰。							
	成果	文化活動を振興する団体や市民の文化活動等を支援することで、市民の文化レベルの維持と向上を図ることができる。							
	手段	・文化振興に係る事務を円滑に進める。・文化振興財団、文化協会等の文化振興団体との連携を深める。・文化行事等に対して、共催や後援による支援を行う。・まど・みちおの顕彰事業として、徳山駅でまど作詞の童謡のメロディを到着音として流す。							
指標	活動指標	指標名		単位	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込	
		後援件数		目標値	件	60	50	50	50
				実績値	件	20	36	41	-
				目標達成度	%	33.3	72.0	82.0	-
コスト	(単位：千円)		令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 予算		
	トータルコスト		2,064	2,172	2,858	4,834	38,081		
	事業費		132	112	192	1,999	34,228		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	0	0	0	1,760	32,108		
	一般財源		132	112	192	239	2,120		
	人件費合計		1,932	2,060	2,666	2,835	3,853		
正職員		1,932	2,060	2,666	2,835	3,853			
正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.27	0.29	0.37	0.39	0.53			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	平成21年度の機構改革に伴い、社会教育一般事務費から分離設定。平成25年度から市長部局に移管。								
	現状の周辺環境								
環境変化等	新型コロナウイルス感染症の影響により、行われなかった文化行事等もあったが、徐々に行事も開催され始めている。								
	今後の予想される周辺環境								
	高齢化が進む中、高齢者の生きがいづくりなどの面から、文化的活動への参加の重要性は高まっていく。今後も文化関係団体と連携を取りながら、文化活動の支援を行う。中学校部活動の地域移行について関係機関と協議を行い、準備を進める。								
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与 (税金支出)	A	文化活動を振興する団体や市民の文化活動等を支援することで、市民の文化レベルの維持と向上を図ることができる。					
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)	A						
		3. 事務事業の目標 (活動指標等)	B						
	有効性	4. 計画の実施状況	B	文化振興団体との連携をとりながら、円滑な事務を行った。					
		5. 目標 (活動指標等) の達成度	B						
		6. 上位施策への貢献度	B						
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B						
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	市民の文化活動の支援等については、向上させる余地があると思われる。					
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A						
10. これまでの実施手段		B							
総合評価	B	本市の文化振興を推進するため、文化振興団体との連携を深めるとともに、文化振興団体の組織強化等の支援に取り組む必要がある。							
改革案	今後の実施方向性	維持	文化振興の担い手として期待する (公財) 周南市文化振興財団と共に、市民や団体等の文化活動の支援に取り組む。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果 (どのような効果が期待できるか)								

令和6年度 事務事業評価表 (令和5年度実績)

事務事業名		文化振興団体助成事業費			担当所属	文化振興課		
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～			
	基本施策	2 文化・芸術の振興		会計種別				
	推進施策	1 文化・芸術活動の促進		実施計画		総合戦略		
事業概要	対象	市内文化振興団体（周南市文化振興財団、周南文化協会、周南郷土伝統芸能保存協会）						
	意図	市民の文化活動を振興する団体を支援することで、市民が文化芸術活動に触れる機会を増加させる。						
	成果	文化芸術活動の支援と地域文化活動の振興がより効果的に推進され、市民文化の振興、向上に寄与することができる。						
	手段	各団体の運営及び事業に対して支援を行う。						
指標	活動指標	指標名		単位	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込
		自主企画事業入場者数（文化振興財団）	目標値	人	10000	10000	10000	10000
			実績値	人	2139	4800	6660	-
			目標達成度	%	21.4	48.0	66.6	-
コスト	(単位：千円)		令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 予算	
	トータルコスト		27,688	28,876	32,036	37,515	30,361	
	事業費		26,042	26,674	30,162	34,752	27,162	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	5,300	0	
	一般財源		26,042	26,674	30,162	29,452	27,162	
	人件費合計		1,646	2,202	1,874	2,763	3,199	
	正職員		1,646	2,202	1,874	2,763	3,199	
正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.23	0.31	0.26	0.38	0.44		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
環境変化等	開始時の周辺環境							
	市民の文化活動を振興する団体への支援が必要であるため、補助支援を行う。							
	現状の周辺環境							
評価	今後の予想される周辺環境							
	周南文化協会、周南郷土伝統芸能保存協会については、会員の高齢化とともに会員数の減少が進む可能性がある。今後も文化関係団体と連携を取りながら、団体への支援を行う。							
	評価項目		評価	評価の理由				
妥当性	1. 市の関与（税金支出）		A	各対象団体への補助支援を行うことにより、効果的に市民文化の振興、向上に寄与することができる。				
	2. 事務事業の目的（対象・意図）		A					
	3. 事務事業の目標（活動指標等）		B					
有効性	4. 計画の実施状況		B	事業も通常に戻りつつあるが、目標は達成できなかった。文化振興団体との連携、団体への支援を行うことにより、市民文化の振興が図れた。				
	5. 目標（活動指標等）の達成度		C					
	6. 上位施策への貢献度		B					
	7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		B					
効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		B	より効果的な支援となるよう、事業の実施手段等について、各文化振興団体と継続的に協議をしていく。				
	9. 類似事業との統合・代替の検討		A					
	10. これまでの実施手段		B					
総合評価	B		各文化振興団体は本市の重要な文化振興の担い手であることから、組織強化等、継続的に支援する必要がある。					
改革案	今後の実施方向性	維持	各団体の運営強化及び特色ある事業に対して支援を継続する。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果（どのような効果が期待できるか）							

令和6年度 事務事業評価表 (令和5年度実績)

事務事業名		埋蔵文化財保護費			担当所属	文化振興課		
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～ 永年			
	基本施策	2 文化・芸術の振興		会計種別				
	推進施策	2 文化財等の保護と活用		実施計画		総合戦略		
事業概要	対象	市内の埋蔵文化財 周南市民						
	意図	埋蔵文化財保護を通じた郷土の歴史の伝承を図る						
	成果	市内の埋蔵文化財の保護が図られる。市民の文化財保護意識が高まる。						
	手段	(1) 周知の埋蔵文化財包蔵地の照会対応 (2) やむをえず破壊される埋蔵文化財に必要となる調査の実施						
指標	活動指標	指標名		単位	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込
		「周知の埋蔵文化財包蔵地」の照会回答件数	目標値	件	450	600	700	800
			実績値	件	636	1053	998	-
			目標達成度	%	141.3	175.5	142.6	-
コスト	(単位：千円)		令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 予算	
	トータルコスト		7,351	6,582	7,061	7,668	10,247	
	事業費		4,203	4,451	4,611	4,760	5,885	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	830	830	826	908	908	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
	一般財源		3,373	3,621	3,785	3,852	4,977	
	人件費合計		3,148	2,131	2,450	2,908	4,362	
正職員		3,148	2,131	2,450	2,908	4,362		
正職員以外		5,358	4,357	4,537	4,627	5,809		
(事業費集計済分)		(5,358)	(4,357)	(4,537)	(4,627)	(5,809)		
人員	正職員 (人)	0.44	0.30	0.34	0.40	0.60		
	正職員以外 (人)	2.05	2.00	2.00	2.00	2.00		
環境変化等	開始時の周辺環境							
	久米区画整理事業の進捗に伴う業務量増により、事業を設定した。							
	現状の周辺環境							
平成28年度で久米区画整理事業に伴う試掘調査を、29年度で長穂圃場整備事業に伴う試掘調査を終了した。								
今後の予想される周辺環境								
権限移譲に対応するため、当面の間は、過去の調査報告書作成と新規調査に従事する専門知識を有する職員2人と補助スタッフが必要である。								
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与 (税金支出)	A	市民共有の財産を保護する事業であり、妥当である。				
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)	A					
		3. 事務事業の目標 (活動指標等)	B					
	有効性	4. 計画の実施状況	B	埋蔵文化財保護に関する手続きの周知が進み、照会件数が増加している。				
		5. 目標 (活動指標等) の達成度	A					
		6. 上位施策への貢献度	B					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	報告書編集作業の効率化に努める。また専門的知識・技術を有する職員体制の確保に努める。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討	B					
10. これまでの実施手段		B						
総合評価	B	事業の継続が必要であるため、実施方法やコストを随時見直して、効果的・効率的な事業運営に努めていく。併せて、調査報告書を速やかに刊行できる体制と、整理作業後の出土物活用について、検討を進めていく必要がある。						
改革案	今後の実施方向性	維持	専門的知識・技術を有する職員体制を確保するとともに、埋蔵文化財保護の周知方法や、経費節減のための効果的な調査方法の工夫を進める。出土物の展示など埋蔵文化財の積極的な活用を進める。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果 (どのような効果が期待できるか)		埋蔵文化財を保護することができるとともに、市民の埋蔵文化財に対する保護意識を高めることができる。					

令和6年度 事務事業評価表 (令和5年度実績)

事務事業名		民俗資料展示室管理運営事業費			担当所属	文化振興課		
基本情報	分野	2 生涯学習・人権	事業期間	～ 永年				
	基本施策	2 文化・芸術の振興	会計種別					
	推進施策	2 文化財等の保護と活用	実施計画	総合戦略				
事業概要	対象	市内の民俗資料 周南市民						
	意図	市内の民俗資料や文化財等を収蔵・展示することにより、文化財保護の意識を高め、郷土の歴史や文化の伝承を図る。						
	成果	市民の文化財保護意識が高まる。						
	手段	(1) 新南陽・熊毛・鹿野の民俗資料展示施設の効率的な管理運営 (2) 児童に対する調べ学習などの機会の提供 (3) 市民に対する郷土の歴史や民俗に親しむ機会の提供 (4) 民俗資料の適切な管理						
指標	活動指標	指標名	単位	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度見込	
		民俗資料展示施設の学校見学及び出張講座の参加児童数	目標値	人	400	400	400	400
			実績値	人	42	172	195	-
			目標達成度	%	10.5	43.0	48.8	-
コスト	(単位：千円)		令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 予算	
	トータルコスト		5,383	3,910	5,226	32,223	9,230	
	事業費		2,092	1,779	1,983	25,680	5,595	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	1	1	2	19,464	0	
	一般財源		2,091	1,778	1,981	6,216	5,595	
	人件費合計		3,291	2,131	3,243	6,543	3,635	
正職員		3,291	2,131	3,243	6,543	3,635		
正職員以外		1,389	1,312	1,324	1,628	1,699		
(事業費集計済分)		(1,389)	(1,312)	(1,324)	(1,628)	(1,699)		
人員	正職員 (人)	0.46	0.30	0.45	0.90	0.50		
	正職員以外 (人)	1.00	0.90	0.70	1.00	1.00		
環境変化等	開始時の周辺環境							
	新南陽の施設は旧幼稚園を活用した単独施設、熊毛及び鹿野の施設は図書館内に設置。							
	現状の周辺環境							
	新南陽民俗資料展示室は、平成28年度から老朽化により一般見学を休止し、隣接小学校内で児童の見学のみ受け入れていた。令和2年度に、福川南地区コミュニティセンターを新たな新南陽民俗資料展示室に転用する方針を決定した。令和4年度に改修工事を実施し、令和5年度に周南市民俗資料館として再開した。							
今後の予想される周辺環境								
空調が一部故障しているため、改修工事が必要である。								
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与 (税金支出)	A	新南陽民俗資料展示室は一般見学を休止していたが、令和5年度に周南市民俗資料館として再開した。				
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)	B					
		3. 事務事業の目標 (活動指標等)	B					
	有効性	4. 計画の実施状況	B	魅力があり、より学習効果の高い施設とするため、さらに検討を深めていく。				
		5. 目標 (活動指標等) の達成度	C					
		6. 上位施策への貢献度	B					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	学校への積極的な出張講座や企画展の実施など、ソフト事業に取り組んでいる。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A					
10. これまでの実施手段		B						
総合評価	B	周南市の歴史や民俗を伝えていくことは必要であるため、民俗資料展示施設及び市内全域での効果的な民俗資料の展示・活用プランについて、さらに検討を深めていく。						
改革案	今後の実施方向性	維持	熊毛・鹿野の同種施設を含めた、民俗資料の展示及び活用法の検討を深める。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果 (どのような効果が期待できるか)							
市民の文化財に対する保護意識を高めるとともに、郷土の歴史や文化の伝承につなげることができる。								